

(別紙4) (西暦) 2020 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0890800055		
法人名	医療法人 竜仁会		
事業所名	グループホームもみじ館 かえでユニット		
所在地	茨城県龍ヶ崎市寺後3937-10		
自己評価作成日	2020年11月20日	評価結果市町村受理日	2021年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=0890800055-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2021年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のもとで、安心・安全な生活を大切にし、尊厳ある毎日を自分らしく送っていただけるよう支援しています。また、地域とのつながりや家族との信頼関係を大切にしています。職員一人ひとりが専門職として日々学びサービスの向上に努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地にあり、地域との連携が現実となってきたところであったが、新型コロナ感染予防のために面会を制限し、外出も難しくなった。そのような状況下、利用者に毎日の体操や様々なレクリエーション、軽い家事等を勧め、利用者の残存能力保持やストレス軽減に努めている。食事時はスタッフが注意を促すほど利用者同士の会話がはずみ、賑やかな食卓である。オンライン面会を始めたことで、なかなか会えない遠くに住む親族と面会する機会ができた。母体病院を中心とし、系列の老健や特養、有料老人ホームやデイサービスと災害や新型コロナ対策等の連携が取れることは利用者や家族、職員の安心に繋がっている。*新型コロナウイルス感染対策としてオンラインで調査を実施。ホーム内の視察及び書類閲覧はモニター越しに行い、リアルタイムの映像で確認。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットの入口や食堂等に理念を掲示している。事業所目標は理念を基に作成し実践につなげている。	年度初めの方針説明時に4つの理念についての話をする。家庭的な環境を目指しているが、利用者との関係は適切な距離を保ち、利用者の尊厳に配慮したケアが行われている。職員は、出勤時に掲示されている理念を一読し、再確認してから業務を開始する。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染防止対策のため、地域行事への参加や外出を含めた交流を持つ事が困難であった。自治会へは議事録を持参し、情報の共有に努めている。	散歩時に近所の方と挨拶を交わしたり、地域の行事等に参加していたが、コロナ禍であった今年度は交流を持つことができなかった。自治会に加入し、自治会長宅に運営推進会議の議事録を持参して、関係維持に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の専門学校生の実習受け入れを行い、認知症高齢者への理解を深めてもらえるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、運営推進会議は市へ相談の上で中止し、代わりに議事の送付を行っている。アンケート調査を行い、いただいた要望について出来る事を実践しサービスの向上を図っている。	市と協議の上、文書での開催となっている。事前にアンケートで推進委員の考え方を確認し、生活状況や、アクシデントの報告と対策、新型コロナ対策などを議題として送付している。新型コロナ対策では、法人内の対策会議で協議した内容を基にマニュアルを作成。協力体制も整えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍の為、会議をどのように開催すればよいか相談させていただいた。また、議事録を市に直接持参し、運営上の不明点などを相談させていただいている。	介護保険の更新申請代行や運営推進会議の報告を持参し、担当職員と話しており、良好な関係が構築できている。質問等にもその場で返答をもらうことが多い。地域包括支援センターにも顔を出し、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	もみじ館デイサービスと共同で身体拘束廃止委員会を行っており、アンケート調査やeラーニングを用いた勉強会を行い、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会は同施設内のデイサービスと合同で毎月行い、議事録を作成している。スピーチロックについての意識調査を行ったところ、無意識に行っていたこともあると気付くことができた。安全のためにフットセンサーや赤外線センサーを利用している方については、口頭で家族に説明して同意を得ており、職員ミーティングで経過を協議し、評価している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングにて虐待に関して学ぶ機会を持ち、虐待についての理解を深めている。また身体拘束廃止委員会にてeラーニングを用いて勉強会を行った。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングにて権利擁護に関して学ぶ機会を持ち、理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に時間を作っていただき、利用者様やご家族に説明を行い、疑問点等について話し合い理解していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会・電話連絡時にご意見を頂戴し、内外共に情報共有し運営に反映している。施設の担当者並びに市町村相談窓口を家族に伝えている。	面会制限中であり、オンライン面会ができることを全家族に通知して、希望者に実施している。写真を送ってくれるだけでいいというご家族もいる。写真付きのお手紙を毎月発送している。アクシデントの他、受診の前後には電話連絡し、家族連絡帳に記録している。利用者からは、食べ物に関する希望が殆どであり、お楽しみメニューの日に応えるようにしている。意見や要望には、早めに対応するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事前に意見書を提出してもらい、ユニット・全体ミーティングで検討している他、適宜コミュニケーションを図り、運営に反映させている。	毎月、ユニット・全体ミーティングを開催し、欠席する職員には事前に意見を求め、活発な意見交換がされている。朝夕に体温を測っており、職員からの非接触型体温計がいいのではないかと意見を受けとめ、すぐに購入した。年2回、管理者が職員面談を行い、目標と成果を確認している。職員からは、意見が言いやすい職場環境であり、目標設定に関して的確なアドバイスをもらうことができた、との話が聞けた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入しており、本人のレベルに合わせた目標設定・自己評価を行ない、総合評価にて昇給等に反映されている。面談を行い働きやすい職場環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリア開発室や介護教育委員会による研修計画に沿って研修の機会を確保したり、外部研修の推進や委員会による研修の機会がある他、介護福祉士資格取得の推進を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、他事業所との交流は行えていないが法人内の連携会議に参加し、サービスの向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の声に耳を傾け安心できる関係づくりを心がけ、これまでの慣れ親しんだ生活を継続できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族やご本人と面談・調査を行い十分に要望を聞いている。面会の度に、生活の様子をお伝えしながら、家族の話も傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況を十分にアセスメントし、ご本人・ご家族にとってより良いサービスが受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のそばに寄り添い、コミュニケーションを図りながら、出来る事、やりたい事を引き出し、日々の家事や楽しみを共にに行い過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用者様の生活状況を報告し、利用者様からのご家族への要望などもこまめに連絡している。また、新型コロナウイルス感染対策の観点から、LINEを使用したオンライン面会を導入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染対策のため面会を中止している。代替手段としてLINEを使用したオンライン面会を導入、今までは難しかった遠方の家族、親戚等と面会を行う事もできている。	以前は友人や親戚の面会があった。現在は、オンライン面会にしたことで、これまで面会できなかった遠方の家族や親戚と話す機会をもてた利用者がある。窓ガラス越しに顔を見ていく方もいる。個人で新聞購読をしている方、サプリメントやプロテインを差し入れてもらう方など、これまでの生活スタイルを継続できている方もいる。美容師の家族に切ってもらっていた利用者には、現在、訪問美容を利用して頂いている。年賀状が届いた方が数人いたが、返事の支援は困難であった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が気持ち良く交流できるよう席配置を工夫し、交流が苦手な方や、上手く話が出来ない方には職員が間に入り、寄り添いながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日頃より、何でも相談していただける関係作りに努めている。今後、契約が終了しても継続して支援ができる体制づくりに努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様には直接今後の暮らし方の意向を確認している。困難な方には、ご家族からの情報や日々のかかわりの中から意向を把握し本人本位に対応できるよう努めている。	家族に会いたいという要望があり、オンライン面会を説明し、実施した。言葉の聞き取りが難しい方は、ニュアンスや様子で把握できることもあり、情報は職員間で共有している。24時間シートから見えてくることもある。裁縫が得意な方には繕い物をお願いしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前までの生活やサービス状況は、担当ケアマネジャーやご家族より情報を提供していただき把握している。入居後は新たな情報を得ながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当職員の気付きや個人の生活記録、健康記録により現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット別に3か月毎にカンファレンス、モニタリングを実施し、現状に即した介護計画を作成している。	具体的な目標達成に向けたプランを作成し、3ヶ月毎に担当者会議でモニタリングし、家族に説明し、同意を得る。24時間シート、生活暮らし記録に利用者の様子を記録している。医療にオレンジ、気づきに緑のマーカ―を引き、内容の区分けが見えるようになった。担当職員が、この記録を見ながら1ヶ月分の様子をまとめて家族に報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活シートを活用し、24時間の記録をこまめに行なっている。日誌には特に重要な申し送りを記載し、気づきや医療的な記録に関してはマーカ―を引き、全職員が共有しながら、実践や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染対策の観点から家族との面会を中止しているため、代替手段としてLINEを使用したオンライン面会を実施している。また、ご家族様へアンケートを実施し、サービスへの要望を取り入れられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	専門学校の実習生などを受けれている。地域行事へは感染防止のため参加は見送っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族の希望を大切に、かかりつけ医による適切な医療を受けられるように支援している。	母体の病院から月2回の訪問診療、週1回の訪問看護サービスを受けている。精神科や母体病院の専門科を受診する際は、職員が同行して症状等の説明をしている。家族と待合わせて受診することもある。受診の前には家族に状況を報告し、記録を残している。訪問歯科の診察を受けている方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回、訪問看護師へ日々の体調変化等について状況報告を行うなど連携を図り、適切に受診等の対応をとれるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関との情報交換を適切に行い、経過についても地域連携室と連絡を取っている。退院時には注意事項等の確認を行い、帰所後に適切なケアが行われるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に緊急時や容態が悪化した場合の説明をさせていただき、状態が変化した場合にはご家族と話し合いを行い、医療関係者と共に支援に取り組んでいる。	基本的に看取りは行っておらず、家族に説明し、同意を得ている。病院搬送を希望する家族が多い。食事が摂れなくなったり、医療行為が必要になった時は医師から家族に説明し、その後に職員と家族で話し合っ方針を決める。今後、看取りを検討しているが、職員の意志の統一が難しいことやメンタル面のフォローが必要になることなどが課題となっている。職員からは、不安はあるが知識を高めて対応していきたいとの思いが語られた。	病院を母体として老健、特養との連携がとれている。家族は看取りまでを望んではないようであるが、今後、希望する家族が出てくる可能性もある。看取りに取り組む意欲を持つ職員にも恵まれていることから、訪問看護との連携を図るなどし、終末期の変化や介護方法を学ぶ機会を作り、職員と協議しながら、看取りの準備を進めていくことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	安全管理に関する研修を年2回行って予防に取り組み、緊急マニュアルに沿って急変や事故発生について職員へ周知している。通常、AEDの訓練を入職時及び年1回実施しているが、今年度は中止している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定図上演習や河川氾濫時の避難を想定した会議を実施。避難時に備え3日分の衣類等を詰めた非常時持ち出しバッグ、備品をまとめた持ち出しケースを常備している。	密になることを避け、図上訓練を行った。関連施設と合同で災害別マニュアルを作成し、協力関係が構築されている。昨年は、台風時に避難要請があり、老健に避難して2泊した。普段と勝手が違うことで利用者が混乱しアクシデントが発生。反省すると共に、今後の課題が明確になった。避難時には、出火元に近い利用者から避難するなど、出火場所により避難経路が変わることを職員も周知している。避難口はスロープになっており、安全に外に出ることができる。備蓄や持ち出しグッズは用意しているが、停電に特化した準備はしていない。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関する研修を行い、利用者様へ丁寧に対応するよう心掛けている。個人情報の保護に関しては、ミーティング等で周知し、実施している。	接遇に関する研修はオンラインで行い、職員は利用者とは近すぎない関係、親しみが過度にならないように配慮しながら支援している。トイレのカーテンをしっかりと閉める、浴室のドアを閉める、トイレ誘導や入浴の声かけは小さな声で行うなどの配慮をしている。面会簿は個票、写真掲載は家族から文書で同意を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを大切にしながら、馴染みの関係を築いている。本人が思いや希望を訴えた際は、話しをゆっくと聴く時間を持ち、希望に添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室に仏壇や位牌を安置し、手を合わせる時間を持つよう配慮するなど、利用者様が一人ひとりのペースに合わせ、可能な限り希望に添えるよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は利用者様が季節に合ったものを自身で選べるよう支援している。理美容は定期的に希望を確認し、実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回のお楽しみメニューや手作りおやつ等、利用者様の希望を叶えられるよう工夫している。利用者様には簡単な調理や食事の準備、食器拭きなどをお願いしている。	配食業者から冷凍で届く食事を、湯煎して配膳している。月2回のお楽しみメニューには利用者の希望を聞き、ファミレスの宅配や地元名物の龍ヶ崎コロッケを楽しむこともある。利用者は御飯をよそったり、食器拭きなど行う。職員はコロナ感染予防のため、別テーブルで食事をとりながら見守りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は制限食や食事形態、好みなど一人ひとりに合わせて対応している。水分量は入居後1週間はチェックを行い、1000ml以下の方は継続チェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食前と毎食後口腔ケアを行っており、本人の状態に応じて支援している。夜間も同様に対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、状態に応じて声掛け、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄を継続できるよう支援している。	排泄パターンに応じたトイレ誘導を行い、失禁が少なくなっておむつ代の負担が軽くなった方がいる。自立している方には排便の確認を行っている。職員の支援でトイレのウォシュレットも使用している。夜間ポータブルトイレを使用している方の安全に配慮し、立位がとれず夜間のみオムツを使用されている方へは、定時のオムツ交換で清潔を保持している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の確保や牛乳・ヤクルトの提供、1日2回、体操などを行い便秘予防を行っている。また、排泄パターンを把握し、個々に応じた支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定表に沿って声掛けを行い、体調や気分に合わせて、柔軟に入浴日の変更等を行っている。季節に合わせて入浴剤を使用するなど、楽しむことができるよう工夫している。	基本的には週2回、曜日を決めての入浴である。拒否傾向の方には工夫した声かけを行っているが、本人の気持ちを尊重して無理強いはいしない。個人ごとに湯を入れ換え、ゆず湯や入浴剤を使用し、気持ち良い入浴を支援している。脱衣所にエアコンを設置してヒートショックに配慮。足拭きマットを個人毎に変え清潔を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みの物を持参していただき、状態に応じて休息の声掛けをしたり、本人の生活習慣に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服チェック表を作成し、2人体制で内服チェックを行い、誤薬の無いように努めている。内服の留意点などもスタッフに説明し、利用者様の状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に合わせて、テーブル拭きや食器拭き、床掃除など出来る事を行っていただいている。季節に応じた行事を企画し、季節を感じられるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策のため面会禁止措置を取っており、外出支援等は行えていない。	コロナ禍前は、散歩をしたり、地域の様々な催しに参加するなど外出機会が多かったが、現在は受診以外の外出はしていない。時々、窓から外を眺めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物や本人が希望する物は職員が買い物に行き、代金を施設で一時的に立て替え、支払い出来るよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば手紙や電話を掛けられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁に季節の壁飾りを製作して掲示している他、各居室の入り口に季節の花(造花)を配して季節を感じられるよう工夫している。	リビングに加湿器を設置し、定期的に窓を開けて換気をしている。利用者の作品を壁に飾り、季節が変わると自室へ飾っている。日めくりカレンダーは利用者がめくっている。外出はできないが、毎日体操を行い、ぬり絵、書道、脳トレなど思い思いのレクリエーションを楽しめるよう支援している。洗濯物を干したり、たたんだりする利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士で会話ができるよう、座席の工夫をしたり、一人でもゆったりと過ごせるよう工夫している。隣ユニットとの行き来も自由に行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ寝具等をお持ちいただいている他、ご家族の写真などを飾るなど、居心地の良い空間づくりに努めている。	居室入り口に名札と作品を掲示し、自室であることを確認しやすくしている。洗面台、ベッド、タンスを備え付けている。ハンガーラック、テレビ、キーボード、机、いす、ぬいぐるみ、写真などが持ち込まれ、本人と家族の思いに沿った部屋が作られている。冷蔵庫の中は職員が定期的に確認している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札を掲げ、必要に応じて場所や大きさを変更している。トイレには目印になる物を貼り、場所や水の流し方がわかるように配慮している。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム もみじ館

目標達成計画

作成年月日 : 2021年4月26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33 (12)	現在看取りを行っていないが、今後看取り行う事を検討している。しかし、職員の意思統一の難しさやメンタル面のフォロー体制構築などが課題となっている。	牛尾病院訪問看護ステーションと連携を図り、看取り研修計画を立案・実施し、職員と協議しながら看取りの準備を行っていく。	牛尾病院訪問看護ステーションと連携を図り、終末期の変化や介護方法等に関する看取り研修計画を立案。年3回程度研修を実施し、職員と協議しながら意思統一を図り、看取りの準備を行っていく。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。